

新春

視点
View Point

みずの まさよし
水野 雅義 氏

長野商工会議所会頭

周りの皆さんに支えられた1期目の3年間に、「NAGANO働く女性会議」など新しい取り組みを始めることができた。しかし、「住む人 来る人 ワクワクする街 長野」へはまだ道半ばです。まずは物価高や人手不足で苦しんでいる事業者の皆様のお力になること、そして、2027年に迎える善光寺御開帳を盛り上げること、さまざまな事業に2期目の3年間も前向きに取り組んでまいります。

(インタビューは2025年11月に実施しました)



会員に資する長野商工会議所であり続けながら
「ワクワクする街 長野」へ向け一歩ずつ

PROFILE

昭和40年9月18日生まれ。青山学院大学卒業後、ホクト株式会社に入社。平成7年常務取締役九州支社長、平成9年専務取締役きこ生産本部長、平成17年取締役副社長を経て、平成18年より現職。

長野に来てよかったと言っていただけに、おもてなしの心をもってお客様を迎えたいと思っています。

働く女性会議などで 新たな一歩を踏み出す

1期目の3年間で特に印象に残っていることは何ですか。

水野 目立った動きとしては、NAGANO働く女性会議があります。女性の副会頭を入れたいと就任当初から思っていたところ、その職に就いてくれた塚田まゆりさんが非常にアグレッシブに

取り組んでくれました。

昨年の全国商工会議所専務理事事務局長会議では、塚田副会頭が講演をしたところ、各地の商工会議所からもっと話を聞かせてほしいと引き合いがありました。長野発の取り組みが全国でも芽生えようとしていること、また今年3月にはその活動が日本商工会議所事業活動表彰を受けたことは、一つの成果だと評価しています。

継続は力なりです。この事業がこの先も着実な歩みをみせながら、塚田副会頭の思惑の通り県全体に拡がっていくことを期待しています。

スポーツを通じた街づくりは、いまひとつ成果を残せませんでした。サッカーのACC長野パルセイロは残念ながらJ2昇格が叶いませんでした。一方、バスケットボールの信州ブレイブウォリアーズはBプレミアへの参入が決まり、再び賑わいが戻るのを楽しみにしています。フットサルの長野ポアールスもF1に定着できるようになれば、盛り上がってくるでしょう。

観光産業は、私の会頭就任時こそ先ほども申し上げた通りコロナ明けで、世の中は懇親会等の開催に抵抗があり、ご苦労された会員事業所も多かったと思います。しかし、最近はインバウンド需要もあり、飲食も宿泊も活気が戻ってきたように感じています。

地域最大級の多業種総合展示会「産業フェア in 信州」については、史上最多の出展社数を更新しました。また、地元の企業経営者が小中学校に



日本商工会議所事業活動表彰を受章

副会頭はじめ 周りに支えられた3年間

長野商工会議所会頭として2期目を迎えました。今のお気持ちを聞かせてください。

水野 1期目は、何かにつけて周りの方々を支えていただいた3年間でした。歴代会頭と違い、私は強いリーダーシップで組織を牽引するタイプではありません。副会頭はじめ皆さんにサポートしていただき、また、皆さんがお立場ごとに先頭に立って各々の事業に取り組んでいただいたおかげで、私はこの要職を3年間続けてこられました。感謝しています。

思い起こせば、就任当初はコロナ明けで、世の中が非常に厳しい状況にありましたが、微力ながらできる限りの対策を日本商工会議所にも伝えながら講じることができました。

しかし、コロナ禍による混乱や経済の停滞は一段落したものの、まさに今、物価高や人手不足で悩まれている事業者さんがたくさんいらっしゃいます。私が目指すところへ至るにはまだ道半ばです。長野地域の中小企業や小規模事業者の皆さんが心配事なく、仕事にやりがいをもって取り組める環境づくりに今後も努めます。

2期目のスローガンも1期目と変わりません。「住む人 来る人 ワクワクする街 長野」を掲げ、変化の激しい経済・社会環境のなかで、長野が魅力ある街になるよう、長野商工会議所ではさまざまな事業に取り組んでまいります。この2期目の間、2027年に善光寺御開帳、翌年には「信州やまなみ国スポ・全障スポ」が長野で開催されます。大きなイベントに合わせて多くの方が長野にお見えになりますから、善光寺に来てよかった、

出向いて、子供たちに直接企業の話をする「ナガノの仕事・出張先生」も定着してきました。学生や子どもたちに長野の企業を知ってもらい、仕事の魅力を理解してもらうこうした機会は、将来にわたり長野の産業を盛り上げていくための種蒔きです。長野に戻りたい、長野で働きたいと希望する若者を1人でも増やすための、はじめの一歩を踏み出すことができたと考えています。

物価高なのに 仕事の評価されない下請事業者

長野地域の経済状況、中小企業が抱える課題について、どうお考えになっていますか。

水野 エネルギーコストや人件費など、あらゆるものの値段が上がっているのに、中小企業や小規模事業者が提供するものやサービスへの評価はまだ低い状況です。パートナーシップ構築宣言



産業フェア



善光寺御開帳



長野えびす講煙火大会

をしている企業数は増えているものの、下請事業者の地位はいまだ不安定です。

大企業や都市部の企業が過去最高利益を出したとか、日経平均株価が5万円に達したなどと報道されますが、その好感感を我々地方にいる者は実感していないというのが正直なところです。中小零細はおいできばりにされている歯がゆさや、中央だけが栄え地方は滅びてしまいかねない危機感さえ感じます。

前政権では地方創生を看板政策の一つに掲げたものの、具体的な成果を見ぬまま今の高市政権に交代しました。地方の中小企業や経済団体には自助努力でできることできないことがあることを高市総理にも汲み取っていただき、地方の者の目から見ても「総理が代わってよかった」と思えるような活躍を期待します。

また、人手不足が課題となるなか、女性やシニア層の活躍の場を拡げることは喫緊の課題です。外国人にも頼らざるを得ないでしょう。最低賃金がこれほど急激に上昇するとは、多くの経営者が予期していませんでした。前政権は最低賃金1500円を早急に実現するとうたっていました。が、正直そのスピードに我々は追いつけていません。急ぎます。そのあたりを国は見誤っているのではないのでしょうか。

賃金を上げなければならないことは、経営者は誰しも分かっています。しかし、大企業なら叶うことも、中小企業、小規模事業者にとっては易しいことではありません。だからといって、DXデジタルトランスメーションを導入することで、少人数でも付加価値を生み出せる経営に切り替えるべきだと言われても、どうやってそこに手をつけたいのか分からない事業者さんも多いと思います。長野商工会議所としても、会員企業の皆様へ、DXについて関心を持っていただき、ご理解いただく場の提供に努めるべきだと心得ます。

会員へ有益な情報提供と適切なアドバイスを

—— ただ今もDXの導入支援についてお話がありました。地方の中小事業者が抱える課題に対処するため、長野商工会議所としてこれからどんなことに努めていかれますか。

水野 何においても長野商工会議所は、中小企業や小規模事業者の皆さんにとって有益な情報を提供する場であり、その情報を受け取った方が長野商工会議所の会員になって良かったと思っただけの場所ではなくてはなりません。補助金の種類やその活用方法など、ご案内できる情報は

さまざまあります。今まで以上に、会員の皆様のお役に立てそうな情報を知っていただく機会を設け、アクセスしやすい環境を整えていくことに力を入れます。

そのうえで、長野商工会議所が会員の皆様の良き相談相手になることです。事業をしていくなかでお悩みのこと、お困りのことがあったら、まずは長野商工会議所に相談してみようと思いつつ、相談してみたら自分たちの課題が明らかになり、その解決への道筋も見えてきた、そう評価していただけるような存在であり続けます。それが私たちの原点だからです。

コロナ禍とコロナ明けに対処するフェーズから、現状は今もお話ししたように物価高や人手不足をどう乗り越えていくかというフェーズに移りました。会員の皆さんのニーズをこまやかに汲み

取った情報提供、そして適切なアドバイスをしていくことが大事になります。

1期目で取り組んできた女性活躍、あるいは産業フェアなど地元経済の活性化事業については、今後もその歩みを着実に進めます。また、今年緒に就いた地域イノベーションに関する事業も、長野地域からイノベーションが芽生えていくことを期して、来年以降も継続していきます。スポーツを通じて街づくりでは、何よりプロスポーツチームの躍進に期待します。サッカーもバスケットもフットサルも、地域のファンの心を掴み続けることで、まちにお金が落ちるサイクルが生み出せたら素晴らしいですね。

冒頭でお話したように、善光寺御開帳や信

州やまなみ国スポ・全障スポといった大きなイベントが開催されます。長野の街が活気づくことを長野商工会議所として大いに期待していますし、そうした機会に長野の魅力を大いに発信したいと考えます。とりわけ善光寺御開帳は、会頭として2期目を迎えた私にとって最も大きな行事となります。前回のコロナ禍での開催とは違った盛り上がりになるはずですし、国内はもとよりインバウンドの方にも喜んでいただける善光寺御開帳になればと願っています。来るべき2027年4月に向けて、その機運を盛り上げていきます。新しい取り組みも現在検討していますので、ご期待ください。

また、国民スポーツ大会が長野で開催される

のは、冬の競技を別として、私が中学生だった1978年のやまびこ国体以来です。一生に一度か二度しか巡ってこない地元開催は、やはり長野にとつて大きなチャンスになるでしょう。

いずれの機会においても、SNSをはじめ場面に応じた効果的な情報媒体の有効な活用、キャッシュレス決済の対応拡大、コミュニケーション能力も含めたおもてなしの向上など、取り組むべきテーマを入念に検討していきます。

長野市との関係について申し上げると、荻原市長が2期目を迎えられました。荻原市長とは、経済活性化や観光振興、スポーツを通じた街づくり、子育て支援等で考え方を同じくしています。引き続き役割分担をしながら連携をより密にしたいと考えています。

お気軽に長野商工会議所へ足を運んでください

—— 最後に、本誌の読者である会員企業の皆様へメッセージをお願いします。

水野 日ごろ事業をされているなかで、苦しんでおられることがいろいろあるかと思っています。お困りのことがございましたら、ぜひ長野商工会議所をご活用ください。皆様の声を伝えていただくことが、我々にとつても非常にありがたい、大切なことです。長野商工会議所は皆様が気兼ねなく足を運んでいただける場でありたいと思っています。職員も皆そうした気持ちでいます。ぜひお気軽にご相談ください。

2期目も「住む人 来る人 ワクワクする街 長野」を実現すべく、内向き後ろ向きになることなく、前向きにあらゆることに取り組んでまいります。皆様どうぞよろしく願いたします。



横顔

趣味はスポーツ観戦。試合会場に足を運ぶと、地元チームが勝つことが多い。ときにチームへ苦言を呈するのも、チームとスポーツへの愛ゆえ。座右の銘は「One for all, All for one」。